



第76回 全国高等学校陸上競技対校選手権大会 奈良県予選会

競技注意事項

1 競技規則について

本大会に適用する規則は、2023年 公益財団法人 日本陸上競技連盟競技規則及び大会規定である。

2022年1月1日のWAの競技規則TR5の改正と新たに「競技用靴に関する規程」が導入されたことに基づき、靴底の厚さのチェックは実施しない。ただし、審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ、競技者はその指示に従わなければならない。明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズは、チェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。

※競技用靴・靴底厚さ表

種目	靴底最大の厚さ	要件備考
フィールド種目 (除：三段跳)	20mm	全投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (800m未満の種目、ハードル種目を 含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m以上の種目、障害物競走 を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じとする。
道路競技 (競走、競歩)	40mm	

※本大会は全フィールド種目で「靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない」の規程を適用除外する。

イエローカード(以下、YC)について

- WA競技規則CR18.5の規定により、TR6、16.5、17.14、17.15.4、25.5、25.19、に違反があった競技者やリレーチームにYCを提示し警告を与える。この場合他の種目との合算は無く、種目ごとに累積し、種目ごとにリセットする。
- 同一種目で2回のYCの提示を受けた競技者は、当該種目を失格とする。ただし、それ以後の他の種目の出場は可能である。YCを提示の累積は、当該種目のみに適用する。

2 練習について

- 練習の時間帯は、下記の通り。

	本競技場	補助競技場
5月26日(金)	7:45～8:40	7:30～16:30
27日(土)	8:15～9:00	8:00～16:30
28日(日)	8:15～9:00	8:00～15:00

※本競技場では、競技会運営の準備も並行しておこなうので、安全に十分注意すること

- 本競技場での練習は、トラック・跳躍種目とする。また、用具については、補助競技場を含め競技場備え付けの物を使用すること。ゴムチューブ等を使用時のスピード練習は全面禁止とする。
- トラックのレーンの使用については、以下の通り。
1・2レーン：中長距離・競歩 3～6レーン：短距離(リレー練習含む) 8・9レーン：ハードル
- 本競技場のフィールド内芝生は、全面立入禁止とする。
- 投てき練習(メディスンボール練習等も含む)は、公式練習以外、競技場内外を問わず一切禁止する。
- 練習会場での練習は、事前に注意事項を確認し遵守するとともに、必ず競技役員の指示に従うこと。

3 招集について

- 招集所は、メインスタンド2F裏・通路北側に設ける。
- 各種目の招集開始時刻・完了時刻は、プログラムの競技日程欄に記載されている。
- 携帯電話・スマートフォン・タブレット等の電子通信機器は、招集所内・競技エリア内に持ち込まないこと。



第76回 全国高等学校陸上競技対校選手権大会 奈良県予選会

(4) 招集の手順

- ① 競技者は、招集開始時刻までに招集所で待機し、競技者系の点呼を受ける。その際、アスリートビブス、競技で使用するシューズの確認を受ける。
- ② トラック種目は、競技者系の点呼を受け、オープンレーン種目については同時に腰ナンバーを受け取り、右腰のやや後方につけること。長距離・競歩種目及び混成競技の最終種目は、別ビブスも受け取ること。
- ③ 代理人による招集の点呼は認めない。ただし、同日に2種目以上にわたって同時刻に出場する競技者は、第1種目の招集開始時刻までに、本人が所定の「多種目同時出場届」(用紙は招集所に準備)を競技者係へ提出し、併せて招集を受けることができない種目の点呼(アスリートビブス、競技で使用するシューズの確認)を受けておくこと。その場合に限り、招集時刻の点呼に代理人を認める。
- ④ 招集完了時刻に遅れた競技者は、出場する意思がないものとみなし処理する。

(5) リレー種目について

- ① 「オーダー用紙」は、各ラウンド(予選・準決勝・決勝)ともに、その種目の第1組目の招集完了時刻の1時間前までに競技者係(招集所)へ提出すること。プログラム巻末の所定の用紙に、必要事項を記入のうえ提出し、「控え」を受けとること。「オーダー用紙」の提出がない場合は、出場する意思がないものとみなし処理する。
- ② 出場メンバー全員が点呼を受けること。ただし、他種目に出場している場合は、上記(4)③に準ずる。
- ③ 4×400mRの第2・3走者は、次走者の待機順を明確にするため、左腰に腰ナンバーをつける。
- ④ ユニフォームは、同一校と判断できるものを原則とする。

(6) 混成競技について

- ① 競技1日目・2日目ともに最初の種目は、招集所にて指定された時刻におこなう。それ以降の種目は、混成競技控室で点呼を受け、当該競技役員の誘導により競技場所に移動する。(トラック種目は20分前、フィールド種目は40分前までに集合すること)
- ② 他種目と重なっている場合は、あらかじめ混成競技係にその旨を告げ、競技者係に「多種目同時出場届」を提出しておけば、直接競技場所への移動を認める。また、このとき競技者はフィールド種目においては、いずれの種目を優先させるかを定めることができるが、トラック種目と重なる場合はトラック種目が優先となる。

(7) 招集所から競技場所への移動は、競技者系の指示に従うこと。

(8) やむなく欠場する場合は、招集開始時刻までに「欠場届」を招集所へ提出すること。用紙は、プログラム巻末の所定の用紙を使用すること。

4 競技進行について

(1) 番組編成及びラウンドの通過について

- ① トラック競技の予選のレーン順、および跳躍競技の予選・投てき競技の決勝の試技順は、すべてプログラム記載左側に示された番号順とする。なお、準決勝以降の組み合わせは、すべて番組編成員がおこない、場内アナウンスするとともに、「奈良県高体連 陸上競技専門部のWEBページ」に掲載する。
- ② トラック競技における次のラウンドへの進出者について
 - (ア) $(+\alpha)$ を決めるとき、その最下位で同タイム(1/100単位)が出た場合、写真を拡大して1/1000秒単位で優劣の判定をする。
 - ・レーンに余裕がある場合：同タイム(1/1000秒単位)の選手の出場を認める。
 - ・レーンに余裕がない場合：本人または代理人により抽選する。
 - (イ) 同着により着取りによる進出者が増えた場合は、 $(+\alpha)$ での進出者数を減らす。
 - (ウ) オープンレーンを使用する種目(800m含む)は、同タイム(1/1000秒単位)の競技者は、全員次のラウンドに進める。
 - (I) 800mについては中位の第7レーンに2名の競技者を配置する。第7レーンの次には第2レーンに2人を配置する。

(2) 競技について

- ① 競技結果については、場内アナウンス発表するとともに、「奈良県高体連 陸上競技専門部WEBページ」に掲載する。なお、競技結果が場内アナウンスされた時点を正式発表とする。
- ② 当該種目出場競技者以外は、競技エリア内に立ち入ることはできない。
- ③ スパイクのピンの本数は、11本以内とし、長さは9mm以内のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については12mm以内とする。また、先端近くで、少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合しなければならない。
- ④ アスリートビブスは、配布された大きさのままで、ユニフォームの胸部と背部つけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでもよい。
- ⑤ 不正スタートについては、混成競技を除いて、一度の不正スタートでもその責任を有する競技者は失格と



第76回 全国高等学校陸上競技対校選手権大会 奈良県予選会

する。混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後に不正スタートした競技者はすべて失格とする。(競技規則162条6、第200条8、国内ルールを適用)

- ⑥ 男子5000mは、タイムレース決勝とする。ただし、スタート後 20分 で競技終了とする。
- ⑦ 男女5000mWはスタート後 35分 で競技終了とする。
- ⑧ 男子5000m・女子3000m・男女5000mWは、危険防止のためグループスタートでおこなう。
- ⑨ トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン(曲走路)を走ること。
- ⑩ 4×100mRのマーカ―は、主催者が準備し、競技前に各コーナーで出発係が配布する。競技終了後、必ず自チームのマークを前走者が取り除くこと。
- ⑪ 混成競技の走高跳は、競技者に最初の高さの希望調査をおこなう。
- ⑫ 混成競技の最終種目では、それまでの成績による順位を表す別ビブスを胸につけて競技をおこなう。背は競技者個人のアスリートビブス、腰はレーンナンバーとする。
- ⑬ 競技エリア内に携帯電話、スマートフォン、タブレット等の電子通信機器を持ち込むことはできない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。
フィールド競技に出場している競技者が、それ以前の試技の映像等の録画再生機器等をスタンドからの手渡しや吊り下げにより競技区域内に持ち込むことは認めない。
- ⑭ 競技場内での練習は競技役員の指示に従うこと。
- ⑮ 走幅跳・三段跳ともに、1組はAピット(スタンド側)、2組はBピット(トラック側)でおこなう。ただし、決勝はAピット(スタンド側)でおこなう。女子三段跳については、ピットを選択することができる。
- ⑯ 三段跳の踏切板は、男子予選 11m00 ・決勝 12m00 、女子決勝 9m00 と 10m00 に設置する。

(3) フィールド種目の予選通過記録は、下記の通り。

	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	やり投
男子	6m30	12m80	10m00	32m00	42m00
女子	4m75	—	—	—	—

(4) フィールド種目の予選では、下記の記録測定ラインを設ける。

	走幅跳	砲丸投	円盤投	やり投
男子	5m90	8m00	25m00	35m00
女子	4m40	—	—	—

(5) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、下記の通り。

男子 走高跳	決勝	(練習) 1m55 1m80	1m60-65-70-74-77-80 以後 3cm ずつ
女子 走高跳	決勝	(練習) 1m30 1m49	1m35-40-45-49-52 以後 3cm ずつ
男子 棒高跳	決勝	(練習) 2m40 3m50 4m50	2m50-70-90-3m10-20 以後10cm ずつ 4m30-40-50-55-60-65 以後 5cm ずつ
女子 棒高跳	決勝	(練習) 1m90 3m30	2m00-20-40-50-60-70 以後10cm ずつ 3m00-10-20-30-35-40 以後 5cm ずつ
男子 八種競技 (走高跳)	決勝	(練習) 任意の高さ	1m50-53-56-59-62-65 以後 3cm ずつ
女子 七種競技 (走高跳)	決勝	(練習) 任意の高さ	1m20-23-26-29-32-35 以後 3cm ずつ

同記録による1位決定と近畿大会出場権決定のバーの上げ下げは、走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

5 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。
- (2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己の物を使用してもよい。その場合、出場競技者全員で共有できるものとする。競技終了後(決勝)、競技場所または南用器具庫で返却する。
検査時刻は、競技開始時刻の 80分前 から 60分前 までとし、南用器具庫(フィニッシュ地点横)でおこなう。
なお、混成競技のやりの検査は競技開始予定時刻の 60分前 までとする。



第76回 全国高等学校陸上競技対校選手権大会 奈良県予選会

6 開会式及び各種目表彰、表彰式について

- (1) 開会式は各校 10名 の参加とし、縦一列に集合すること。ただし、雨天時は正面玄関スタンド下で、各校代表 1名 の参加により行う。
- (2) 各種目 6位 までの入賞者を表彰する。結果発表のアナウンス後直ちに、受賞者席(メインスタンド下中央ロビー)に集合すること。
- (3) 表彰式では以下の表彰を行うので、当該校(者)は必ず参加すること。
 - ① 男女各総合、男女各トラック、男女各フィールドの部で6位までに入賞した学校
 - ② 男女の最優秀選手
 - ③ 男女各総合優勝校の監督

7 一般的注意事項

- (1) 競技場の開門は、1日目は、7時30分 2・3日目は、8時00分 とする。
- (2) 競技者の入退場は競技場の各ゲートから行き、みだりに競技場内(本部席前)の横断や通過はしないこと。
- (3) 応援はスタンドで行い、立入り禁止区域には入らないこと。メインスタンドでの集団応援は禁止する。
- (4) 更衣室の使用は、更衣のみとし、私語はせず、使用後は速やかに退室すること。また、一切の私物を置いてはならない。
- (5) 競技中に起こったケガについては、本部の医務室で応急処置のみ行う。
- (6) スタンド等使用した場所は、各校で責任を持って清掃し、ゴミ等は各校で持ち帰ること。駅・競技場周辺のゴミ箱等には絶対放置しないこと。
- (7) 貴重品、荷物等は各自・各校で管理し、盗難等に十分注意すること。
- (8) 個人情報の取り扱いに関して
 - ① 本大会に関して寄せられた個人情報は、本大会の目的以外に使用しない。
 - ② 参加申込書の提出により、上記①の取り扱いに承諾を得たものと見なし氏名・学校名・学年・記録を紹介し掲示板に掲載する。また、本大会が認めた報道機関にも公表する。入賞者は報道機関の取材を受けることがある。
 - ③ 本部が認めた報道機関が撮影した写真が、新聞・大会報告書・ホームページ等で公表されることがある。